

# 凄腕の仕事人

すいとうで

池田内装(出雲市大社町北荒木)の池田謙志社長(44)は、国宝や重要文化財も手がける国内トップレベルの壁装職人だ。全国各地の現場を経験しながら、和紙や布などさまざまな素材の壁紙を素早く、正確に貼り付ける技術を身に付けた。「同じ現場は一つもない。それが壁装の一番の魅力」と語り、旺盛な探究心で技を磨き続ける。

建物の床面や壁面の下地をパテで補修した後、のりを塗って壁紙を正確に貼り付ける。壁装の世界は長い経験がものをいい、ごまかしが効かない。壁紙のつなぎ目に寸分のズレも凸凹もなく、なめらかに貼り付けているかどうか、指先の感覚を研ぎ澄ませ、手ざわりと目視で調整していく。時には異なる素材の壁紙を組み合わせて一面を仕上げることもあり、「ズレなく貼り切った時は達成感がある」

## 国内トップの壁装職人

池田内装社長 池田謙志さん



旺盛な探究心で、壁装の技術を追求している池田謙志社長＝出雲市大社町内

と語る。

高校卒業後、会社員を経て20歳の時に、知人の紹介で壁装の世界に飛び込んだ。知識も経験も皆無の若者は、素材の扱いや貼り付け方のこつ

を先輩職人から必死に聞き、目に焼き付け、技を盗んでいた。

2021年、41歳の時に全国の職人が技量を競う「技能グランプリ」建設部門・壁装

部門で優勝し、最優秀賞を受賞した。

職種に出場し、全国の猛者26人のうち、最優秀の金賞を獲得。日本一になった。3面に

分かれた高さ約1・8メートルの壁に異なる素材を貼り付ける種目。美しい仕上がりには、文化財などで用いられる壁と壁紙の間に和紙を挟む特殊技法も必要になる。

全国の寺院を訪れ、国宝や重要文化財を扱う現地の職人に直接指導を請うて習得した技が、成果となって現れた。

内装分野で最高峰となる国家資格「一級表装技能士」を持ち、一般的な塩化ビニール樹脂から和紙、織物、金箔の材質が異なる4種の素材を自在に扱う。一般住宅を中心に、全国

をまたにかけ年間約千件超を施工する。これまでに興福寺(奈良市)や広島平和記念資料館(広島市)などの国宝、重要文化財を手がけたこともある。22年には上皇さまと上皇

后さまが使用される旧赤坂御所(現・仙洞御所、東京都港区)の改修工事に加わり、織物でできた壁紙の貼り付け作業で高い技術を発揮した。

有数の職人として地歩を固めた現在も、常に新しいステーションを追い求め、技量の向上に余念がない。「技術は職人から職人へと伝わっていく。これからは志を持つ若者に、自分の経験を伝えたい」と新たな目標を掲げている。

いけだ・けんじ 出雲農林高校卒業後、出雲市内の壁装会社で13年間勤務。2013年に個人事業主として池田内装を立ち上げ、24年に法人化した。21年に技能グランプリ建設部門・壁装職種で最優秀賞の金賞を受けた。出雲市大社町北荒木。44歳。

Sanin Economy

### 取材現場から

#### 新旧の技術 常に追求

「常に新しい技術を追い求めたい」。池田社長が熱っぽく語る様子に圧倒された。

文化財に用いられるような古来の技法を学ぶ一方で、日々進化する最新技術の習得にも余念がない。こうした日々の積み重ねが高い完成度を支えている。さまざまな条件の壁装の現場では、知識が多ければ多いほど、それだけ対応できる引き出しが増えるという。歩みを止めない職人の進化にこれからも目が離せないと感じた。(中島諒)

山陰経済

野本 毅 執筆  
(松江二中2年)